

ご挨拶

アニュアルレポートも 2011 年の初刊から数えて 3 冊目となりました。
これをお読みいただき、当院へ患者様をご紹介くださる施設も年を追うごとに増え、
大変光栄なことと、この場を借りて改めて御礼申し上げます。
紹介していただいた患者様には私共が出来うる最良の医療をご提供し、
ご満足の上お戻りいただいていると自負しております。

さて、東京オリンピック開催も決まり、日本にもやっと少しの夢と希望、そして活気が出てまいりましたが、
その中にある医療は様々な課題を抱えております。
その最たるものは「2015 年の高齢者介護」の問題でしょう。
これは、団塊の世代が 65 歳以上になりきる 2015 年までに実現すべきことを念頭に、
これから求められる高齢者介護の姿が描かれたものです。
「高齢者が尊厳をもって暮らすこと」が重要とされていますが、私には、介護を受けずに人生を全うすること、
つまり「健康寿命を延ばすこと」の方が大切なのではないかと感じられます。
そのために我々眼科医が出来ることは、人間の五感の中で 90% の情報を得ていると言われる視覚を、
最後までよい状態に維持できるようサポートすることではないでしょうか。
中でも高齢者のほとんどが罹患する白内障をいかに完璧に治療し、よい視機能を回復させるかということは、
健康寿命を延ばすためにも大変重要であると考えております。

お蔭様で 2013 年は名古屋アイクリニックにおいては 660 例の白内障手術を行いました。
そのうち 11% の方がプレミアムレンズである多焦点眼内レンズを希望され、
その見え方にとっても満足していらっしゃいます。

名古屋アイクリニックでは、高齢者はもちろん、
あらゆる年代の方に質の高い「視生活」を送っていただくことが出来るよう、
医院一丸となって邁進していく所存です。
今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

名古屋アイクリニック院長 中村 友昭

- 1988 年 宮崎医科大学（現宮崎大学医学部）卒
- 日本眼科学会認定眼科専門医
- 日本抗加齢学会認定専門医
- 日本眼科学会屈折矯正手術講習会講師
- 日本白内障屈折矯正手術学会誌編集委員
- 日本手術学会プログラム副委員



アニュアルレポート発刊に寄せて

2013 年アニュアルレポートの発刊おめでとうございます。
角膜疾患の治療にも「見え方の質（Quality of Vision: QOV）」が求められるようになってきましたが、
東海地区でもいち早く患者さんたちの QOV を念頭に置いた角膜治療を始められたのが中村友昭先生であり、
名古屋アイクリニックの皆様でしょう。

LASIK に代表される角膜屈折矯正手術をはじめ、
日帰り角膜移植術への対応、円錐角膜へのクロスリンキングなど、
世界でも最先端の技術を採用してこられている姿勢が頼もしいです。
当院からは主に角膜表層混濁や再発性角膜びらんの患者さんへの
治療的角膜切除術（Phototherapeutic Keratectomy: PTK）、
円錐角膜の患者さんへのポストンレンズやクロスリンキングあるいは角膜リング（Intracorneal ring: ICR）、
角膜移植術後の乱視の矯正などで依頼をさせていただいています。
また、角膜屈折矯正手術についても、角膜疾患診療を専門とされ、的確な適応判断とともに万一のトラブルにも
速やかに対応していただける安心感から、手術を希望する患者さんだけでなく、
当院職員にも名古屋アイクリニックを勧めさせていただいています。

同じ角膜疾患の診断と治療を柱としながら、当院にない特長を備えた名古屋アイクリニックが、
直線距離にして 1.1km の近隣にあつて、お互いに連携を取り合って診療できるということ。
このことにより当院での患者さん達には高いレベルの診療が提供できていることを常々有難く感じております。
これからも東海地区の前眼部疾患診療を一緒に盛り上げてゆければ幸いです。
名古屋アイクリニックの益々のご発展をお祈り致します。



藤田保健衛生大学
坂文種報徳會病院眼科教授
平野 耕治

ハートのある医療

＜基本方針＞

常に最先端の医療で、安心と満足を提供します

患者様の意志と人格を尊重し、最善の医療を提供します

目のパートナーとして、いつまでも良い信頼関係を築きあげるように努めます

先進医療機関

2009年5月1日、多焦点眼内レンズを用いた白内障手術に対し、厚生労働省より「先進医療実施医療機関」に認定されました。

社会貢献

医療を通じて社会に貢献する

■ ボランティア応援レーシック

ボランティアなどで社会貢献している方を応援するプロジェクトを始めました。
水曜日のLASIK手術限定。

■ペットボトルのキャップでポリオワクチンを

エコキャップ推進協会に送ったあと、リサイクル業者に売却され、その売却益が「認定 NPO 法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会」に寄付されます。



■待合室で社会貢献紙コップ

待合室に置いてある社会貢献紙コップは、売上の3%が東日本大震災の復興支援金として寄付されます。



■桃・柿育英会に参加しています

東日本を襲った大地震や大津波で、保護者を突然失った多くの遺児たちを10年以上支援する「桃・柿育英会（東日本大震災遺児育英資金）」の活動に参加し、2013年には3回目の寄付金分配が行われました。少なくとも10年間は子どもたちの成長を見守りながら、良好な教育環境の中で学んでいく意欲を支え続けたいと考えています。



■リサイクルメガネの寄付

世界各地の難民、国内避難民の方々にメガネを送る海外難民視力支援ミッションに協力しています。

■盲導犬育成のための募金

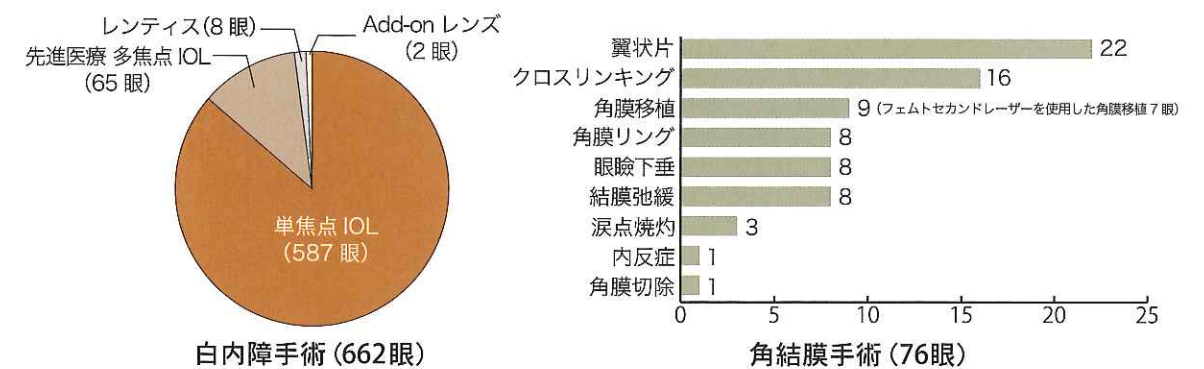
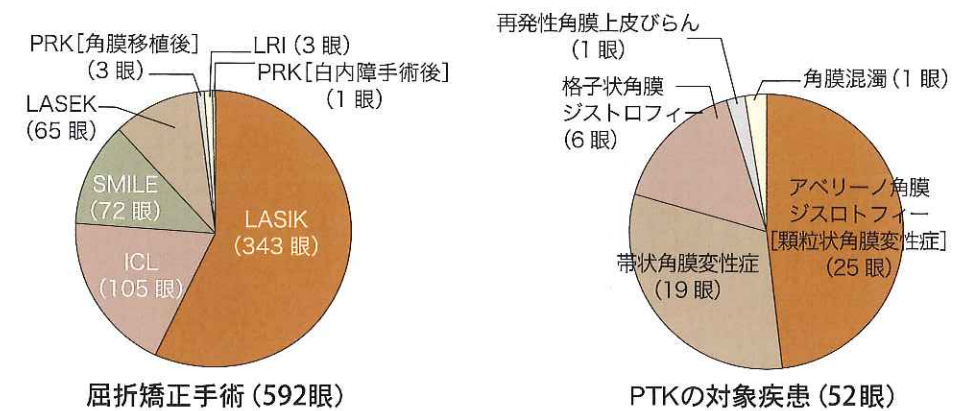
毎年、募金は財団法人日本盲導犬協会へ寄付しています。



■アイバンク募金

年に数回、財団法人愛知県眼衛生協会（愛知県アイバンク）へ寄付しています。

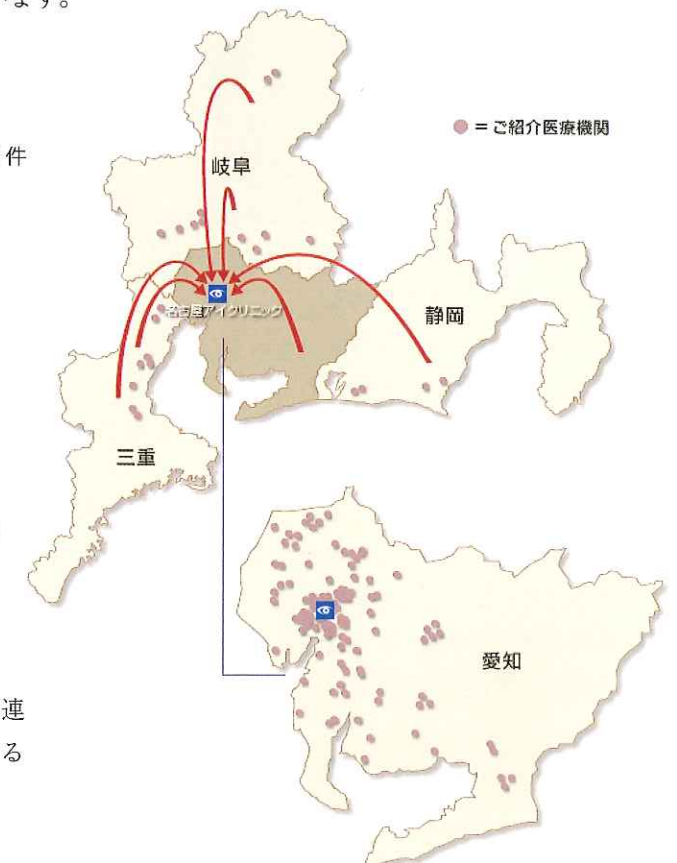
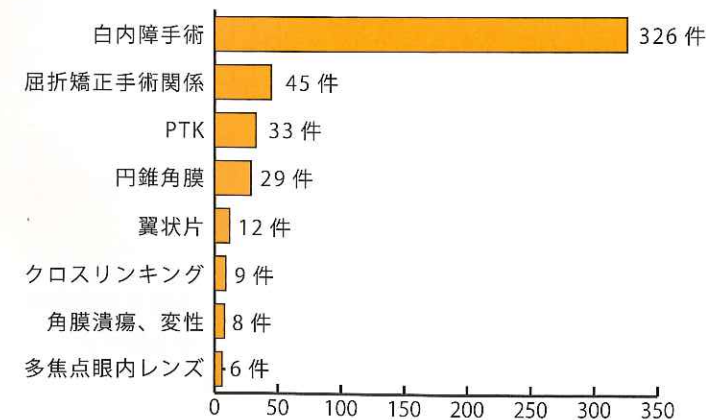
2013 年手術件数



他院からのご紹介

県内外 200 以上もの施設から、患者様をご紹介いただいています。

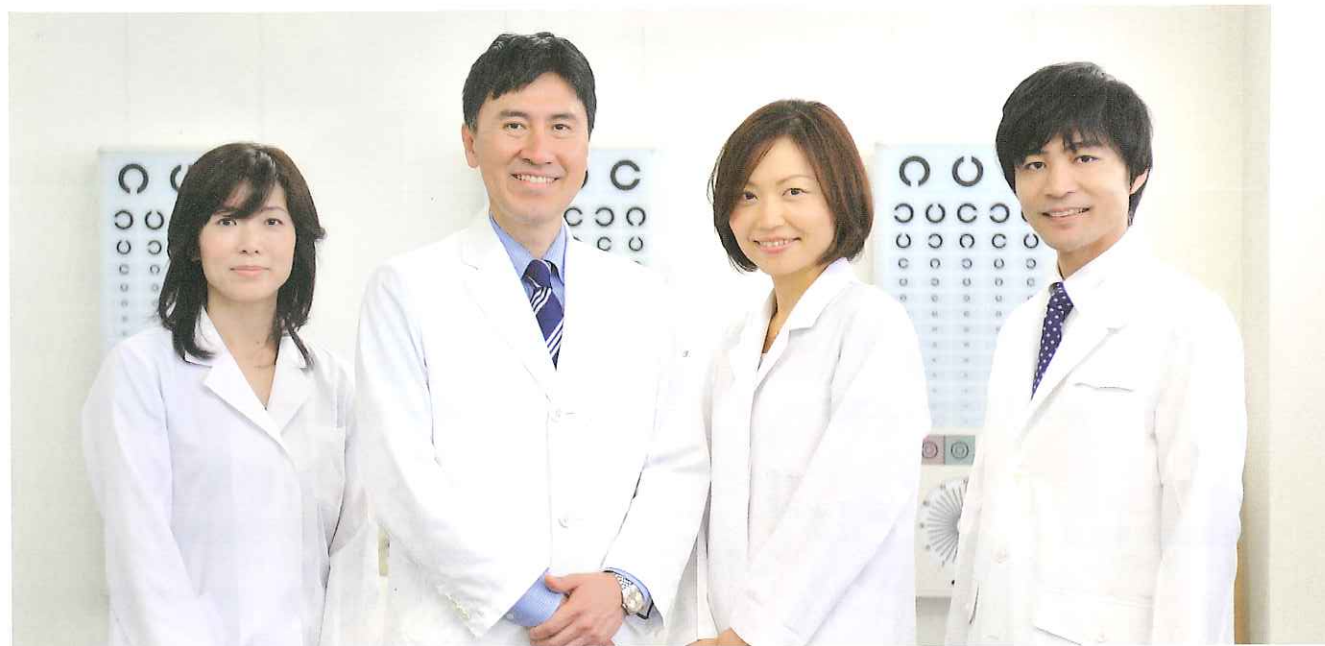
■2013年のご紹介内訳



■病診連携

当院から約10分の距離にある社会保険中京病院眼科と病診連携を結ぶことにより、重篤な患者様でも速やかにご紹介することが可能です。

医師紹介 *Doctors*



角膜移植術、屈折矯正手術、白内障手術、ドライアイをはじめとする前眼部治療のスペシャリストです。経験豊富な医師が最後まで責任をもって、大切な目を治療します。



■ 吉田 陽子 (名古屋アイクリニック 副院長)

- 1995 年 福島県立医科大学卒
- 日本眼科学会認定眼科専門医

プライベートでも思春期の娘たちとのコミュニケーションのとり方に悩む毎日ですが、最近、インフォームドコンセントの難しさを痛感しています。患者様がしっかり理解しているかどうかを確認することは当然ですが、患者様の言いたいことを正確につかむ必要があります。さらに、言葉で表現されていないところまで洞察する能力が必要なのだと感じます。これからも患者様と信頼関係を築けるよう努力していきます。



■ 小島 隆司 (非常勤医師)

- 1998 年 名古屋大学医学部卒
- 2012 年 慶応義塾大学医学部博士課程修了
- 日本眼科学会認定眼科専門医

今年はフェムトセカンドレーザーを用いた角膜リング手術を始めることができました。これで円錐角膜治療の幅も広がり角膜クロスリンクから角膜リング、レーザーを用いた角膜移植まで患者様の状態に応じて治療ができるようになってきました。

その一方、昨今のインターネットによる情報の氾濫の影響で不安におおられたり、全く根拠のない情報に惑わされている患者様を多くお見受けします。私は今後もエビデンスに基づいて角膜診療を行っていきたいと考えています。インターネットではこういう風に書いてあるところもあるけれど実際はどうなんですか？というご質問大歓迎です。



■ 長谷川 亜里 (非常勤医師)

- 2006 年 山口大学医学部卒
- 日本眼科学会認定眼科専門医

2013 年からアレルギー外来を担当することになりました。新しい検査や治療も取り入れていきたいと思っています。

また、春から運動（といっても学生時代に慣れ親しんだテニスですが）を始めました。時間がないことを運動しない口実にしてきましたが、意外と時間は作れるもので、続いています。あきらめずに、面倒がらずに、やってみれば上手くいくことは他にもあるかもしれません。今後のテーマにしたいと思います。

スタッフ紹介 *Staff*



■ 看護部

4つの基本責任「健康の増進」「疾病の予防」「健康の回復」「苦痛の緩和」を念頭に置き、多岐にわたる症状を訴えて来院される患者様に対応できるよう、努力しています。患者様に誠意をもって対応し、来院からお帰りいただくまで安心できる看護を実践すべく、外来チーム、手術チームともに、レベルの高い看護を目指しています。また、患者様と医師や視能訓練士、事務スタッフとの橋渡しの役割も担っています。



■ 検査部

社会保険中京病院眼科にて研修、経験を積んでおり、患者様一人ひとりに合った治療方法や眼内レンズを提案することができます。さらなるレベルアップを図るため、日頃から自主的に勉強会に参加し、学会発表や論文の執筆に向けての研究も続けています。

検査の際は、患者様のお話にしっかりと耳を傾け、コミュニケーションをとることで少しでも快適に検査を受けていただけるよう心がけています。また患者様にとってより良い矯正方法がないかを常に考え、スタッフ内で話し合う場も設けています。



■ 事務部

受付や事務作業だけでなく、カウンセリングや手術の説明など幅広く業務を担当しています。

診療のサポートもできるように、学会や勉強会にも参加して知識を身につけ、意欲的にさまざまな分野の勉強をしています。

施設紹介 *Facilities*

外観



総合受付



キッズスペース



診察室



4F 受付



手術室



ビル入口



検査室



カウンセリングルーム



4F 待合室



屈折矯正手術機器



医院入口



待合室



眼精疲労マッサージルーム



キッズルーム



リハビリ室



リハビリ室



ホスピタリティ *Hospitality*

■ 待合室



車いすスペースや、「携帯電話 OFF 席」を設置。患者様にやさしい待合室を目指しています。
待ち時間を快適に過ごしていただけるように、季節に合ったアロマをたき、給茶機や飴なども用意しています。

■ スピーチプライバシー



診察室やカウンセリングルームには、会話情報を保護するスピーチプライバシーを設置しています。

■ パウダールーム



お化粧直しなどに使っていただけるパウダールームを用意しています。

■ タクシーサービス



手術日の帰宅は、配慮のいきとどいたデラックスタクシーにて安心してお帰りいただけるサービスを行っています。

子育て支援 *Child care support*

■ キッズスペース

待っている間も飽きないように子供用 DVD やおもちゃなどを用意しています。

■ 託児サービス「Kid's Eye Club」

時間のかかる検査や手術日に、保育士の資格・育児経験のあるスタッフが専用ルームにてお子様を大切にお預かりします。お母様だけでなく、お父様が手術をされる際にもご利用いただけます。

■ おむつ交換台

女性用お手洗いに、簡易ベビーベッドを設けています。



トピックス Topics

- Rayner Sulcoflex multifocal [Add-on 多焦点眼内レンズ] の使用を 2013 年 4 月から開始しました。
- ICL1000 眼達成 (2013 年 6 月 14 日)
- ReLEx smile100 眼達成 (2013 年 8 月 9 日)
- ホームページを 2013 年 9 月 1 日にリニューアルしました。
- 多焦点眼内レンズ説明会を毎月開催しています。



多焦点眼内レンズ体験談集



カル・ツァイス社から、レーシック手術の実績と技術の証である ReLEx smile の認定証が授与されました。



ICL1000 眼の実績により、スターサージカル社よりトロフィーが贈呈され、ICL 1000 club に認定されました。

情報発信 Information

ホームページ リニューアル



<http://www.lasik.jp/>

2013 年 9 月にホームページを大きくリニューアルし、さらに見やすく、当院のイメージに沿った仕上がりになりました。今まで通り、ホームページから診察の予約をしたり、担当医や診療スケジュールの確認ができます。

■ 地下鉄アナウンス

地下鉄名城線金山駅で、乗降客に対して当院のアナウンスが流れています。

■ 「安心レーシック完全ガイド～レーシックで後悔しないための必読書～」

院長ブログ「レーシック徒然草」

日常で感じたことなどを勝手気ままに語るブログ

小島医師ブログ「角膜外來日記」

ドライアイ、特殊コンタクトレンズ外来の診療で感じたことをノンフィクションで書き綴る

ちょっといい話

診療を通してスタッフが院内で見つけた心温まる「ちょっといい話」を毎週 1 回お届け

ツイッター https://twitter.com/Lasik_NIC

スタッフが目に関する様々な情報や医院の最新情報を随時つぶやいています



メディアリリース Media release

- 2013.2.21 中村院長が中部経済新聞の取材を受け、『DOCTOR が薦める名医』のコーナーで紹介されました。

これは中部地方の医師から医師へ名医を薦めるという、長年続いているシリーズです。

院長は、現在中京病院眼科主任部長である市川一夫先生との出会い、白内障手術に魅せられ眼科医を志した経緯、また慶應義塾大学医学部教授である坪田一男先生の下でのドライアイ、角膜移植などの角膜治療の研修、その後の LASIK 手術へと繋がる一連の眼科治療への取り組み等についてインタビューに答え、医師としての信念についても語っています。

- 2013.8.6 名古屋アイクリニックの顧問・市川先生が中日新聞の取材を受けました。

中日新聞の『つなごう医療 中部の最前線』で、社会保険中京病院眼科主任部長 市川一夫先生が取材を受け、若手の育成や海外での指導などを精力的に行っていることが紹介されました。

- 2013.10.15 中村院長が「眼科医が選んだ目の名医」として『週刊現代』の記事で紹介されました。

- 2013.11.13 中村院長が東海テレビ『スイッチ!』でドライアイについて説明しました。

- 2013.12.6 NHK『ナビゲーション「ナースマン」が医療を変える～看護師の可能性～」で中村院長と看護師 山田がインタビューに答えました。

- 2013.12.10 CBC『ゴゴスマ』に生出演し、「今知りたいニュース」でレーシックの疑問に答え、インフォームドコンセントの重要性などをお伝えしました。



白内障手術 *Cataract surgery*

当院は屈折矯正手術専門医院ならではの「術後屈折」にこだわった白内障手術を心がけています。手術は水曜日と金曜日の午前中、出来る限り1ヶ月以上お待たせしないよう、受け入れ体制を整えています。

ご紹介をいただく場合、通常は術前検査と手術のみを当院で行い、術後は速やかにご紹介くださった施設へお戻りいただいています。また、遠方の方、仕事がお忙しい方、強度近視の方には一日に両眼の手術を受けていただくこともできます。その際に必要となる手術器具の管理や、術後のケアには細心の注意を払っておりますのでご安心ください。

お付添いの方にも、コーヒーなどを飲みながらゆったりとお待ちいただくことができるよう、診療とは別の階にある専用待合室をご用意しました。

手術後は、点眼や生活上の注意点などをお付添いの方にもご説明し、お帰りにはタクシーサービスもご利用いただけます。手術当日の午後、執刀医から患者様のご自宅にお電話をして、ご本人と直接お話しし、術後の状況を確認します。

その後は緊急携帯電話にて対応いたします。



■先進医療実施医療機関

多焦点眼内レンズを用いた白内障手術は先進医療技術に規定されています。

先進医療実施医療機関に承認されている当院にて「先進医療」として同手術を行った場合、手術代金以外の検査代、薬の処方代などは保険が適用されます。生命保険で先進医療特約に加入している場合、手術費の全額が補助されます。

(ただし、累計が保険額の上限に達している場合を除きます。)

当院では約11%の方が多焦点眼内レンズを選んでいきます。

■取扱レンズ

◎単焦点眼内レンズ

着色眼内レンズ、非球面眼内レンズ、トーリック眼内レンズ

◎多焦点眼内レンズ



回折型

テクニスマルチフォーカル (アボット社)
(先進医療対象)



屈折型

レンティス Mplus (オキュレンティス社)
(先進医療対象外)



屈折型 Add-on レンズ

レイナーサルコフレックス (レイナー社)

■Add-on レンズ

レイナー サルコフレックス® Multifocal



眼内レンズのパイオニア、英国のレイナー社製のアクリルでできたレンズです。通常の単焦点眼内レンズで白内障手術を受けられた方に、もう一枚重ね合わせるレンズとして開発されました。

レンズの直径は6.5mmと充分大きく、術後の夜間の光のまぶしさを感じないように作られています。またハプティクスの凸凹により回転を防ぐとともに、角度は10度つけてあり、虹彩との距離を保つことで術後の炎症などを防いでいます。このような様々な工夫により、安全で確実に眼内にもう一枚のレンズを挿入することが出来るようになりました。

〈症例1〉尾関健司様 (45歳)

5年前に他院で片眼の白内障手術を受け、僚眼の白内障手術希望で来院された男性に対し、眼内レンズ挿入眼には多焦点のサルコフレックスレンズを、僚眼には通常の多焦点眼内レンズを挿入しました。単焦点眼内レンズが入っていた目も遠近に焦点が合い、術後、メガネの必要がない快適な生活を送っていらっしゃいます。



〈症例2〉65歳女性

元来高度近視の女性で、2012年の両眼白内障手術時に単焦点眼内レンズを挿入しました。術後遠見視力が右0.15(1.2 × S-2.75D; Cyl-1.25D, Ax160°)、左0.3(1.2 × S-2.5D; Cyl-1.25D, Ax180°)でしたが、遠見を裸眼でより良く見たいとの希望のため、両眼にトーリックで多焦点のサルコフレックスレンズを挿入しました。Add-on レンズ挿入後、遠見裸眼視力は右眼1.2、左眼1.2、近見裸眼視力は右眼0.5、左眼0.5となり、近見は術前より少し見づらくはなりましたが、眼鏡なしでの生活が実現し、患者様は満足されました。



サルコフレックス挿入後のUBM画像。2枚のレンズが接触することなく適度な距離で入っているのが分かる。

■LASIK 後や円錐角膜の方の眼内レンズ度数

LASIK 後の眼内レンズ度数計算はやや困難です。現在のところ完璧な眼内レンズ計算式は存在しませんが、我々は入手可能なほぼ全てのレンズ計算式を用い、症例ごとに微調整を加えて眼内レンズ度数を計算しています。この結果、術後3ヶ月で80%以上の方が目標屈折値の±1.0D 以内におさまり大変満足されています。

また、円錐角膜などの不正乱視に対しても、眼内レンズ計算のノウハウを蓄積しています。もし、このような眼内レンズ度数計算でお困りの先生がいらっしゃいましたら、度数計算だけでもさせていただきますのでご相談ください。

■白内障術後のタッチアップ LASIK

白内障手術は屈折矯正の要素も兼ね備えているため、度数ズレは術後満足度から考えると極力避けなければなりません。多焦点眼内レンズなどのプレミアムレンズに限らず、単焦点眼内レンズであっても、白内障術後の残余乱視や、屈折エラーに対してタッチアップ LASIK を行う診療システムをご用意しています。

最も目に優しいフェムトセカンドレーザーを使用したタッチアップ LASIK は、術後の視力にこだわりのある患者様などの満足度を高めるためのよい方法と言えるでしょう。

角膜外来 Cornea

角膜外来は、難治性角膜ヘルペスのような感染症、外傷後や角膜ジストロフィーなどによる角膜混濁、円錐角膜などを始めとして、眼表面のあらゆる病気を対象にしています。

円錐角膜治療

進行予防の角膜クロスリンク治療から、視力を十分に出すためのコンタクトレンズ処方（円錐角膜用ハードコンタクトレンズ、ボストンレンズ）、角膜リング手術を行っています。今年ではフェムトセカンドレーザー VisuMax を用いて角膜リングを挿入する手術を開始しました。角膜リングは、写真のように角膜内に挿入するリングで、近視及び乱視の矯正効果があります。また円錐角膜の不正乱視もある程度矯正が可能です。ハードコンタクトレンズが異物感などの理由で使えない方の視力向上や、ハードコンタクトレンズのフィッティング向上のために用いられます。コンタクトレンズや角膜リングで矯正不能な場合は、角膜移植も積極的に行っています。円錐角膜の場合は自分の角膜の一部を残してその上に新しい角膜を移植する深層移植を第一選択に行っています。この方法の場合、術後に拒絶反応を起こして再移植が必要になるリスクがほとんどありません。



日帰り角膜移植

当院では角膜移植を日帰りで行っています。移植で日帰りとなると「えっ、大丈夫？」と言われることもありますが、実質的な手術時間は局所麻酔下1時間程度で、それほど体に負担がかかるような手術ではありません。2013年は、9例中7例の移植をフェムトセカンドレーザーで行いました。フェムトセカンドレーザーを用いるとメスで角膜を切る必要がなく、正確にドナー角膜と患者様の角膜の大きさ、深さを合わせることが出来ます。入院が必要な方は、社会保険中京病院眼科もしくは岐阜赤十字病院眼科に紹介させていただいています。

ドライアイ外来

一言でドライアイと言っても、様々なタイプのドライアイが存在します。現在ドライアイ研究会が提唱していますが、涙液層のどこに異常があるかを診断（Tear film oriented diagnosis, TFOD）して、どの層を治療するのか（Tear film oriented therapy, TFOT）を決めることが重要になってきています。油層の異常であれば、マイボーム腺炎の治療、マイボーム腺マッサージの指導などを行っています。水層の異常に対しては、涙点プラグ、ジクアホソル点眼などを組み合わせて治療しています。角結膜上皮層の異常に対してはレパミピド点眼や自己血清点眼で傷の修復を促します。このように、ドライアイでも涙のどこに異常があるのか総合的に判断して治療を行うように心がけています。

治療的角膜切除術 PTK

エキシマレーザーを使用して、角膜の混濁を取り除きます。帯状角膜変性症などの角膜表層混濁・角膜ジストロフィー・アベリーノ角膜変性症・再発性角膜上皮びらんなどに有効です。基本的には近視や乱視の度数は変わりません。（必要な場合は屈折矯正を同時に行うこともできます。）

ただ混濁を取るだけでなく、スミージングを行い不正乱視をできるだけ取るなど、こだわりを持って手術を行っています。

翼状片

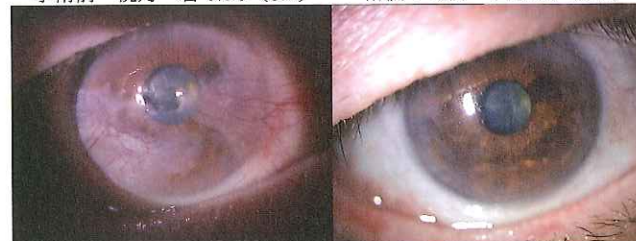
角膜不正乱視を惹起して、視機能にも大きく影響を与えることが知られています。当院での再発率は、ほぼ0%で、充血を残さない美しい仕上がりを目標に手術を行っています。基本的な術式は遊離移植弁を使用した切除術で約20分の日帰り手術です。

再発例には、羊膜移植、マイトマイシンを組み合わせしており、難治性な翼状片でも、視力を回復することができます。

手術前 視力 0.15 (0.3) 術後1ヶ月 視力 0.8 (n.c)



手術前 視力 右 0.06 (0.1) 術後1ヶ月 右 0.15 (0.3)



屈折矯正手術 Refractive Surgery

専門家に選ばれる施設であること

名古屋アイクリニックで眼科手術を受けられた医療関係者
医師：152名 看護師：250名 ※2013年12月6日現在

当院の患者様には、医師や看護師がとて多いという特徴があります。同じ医療職だからこそ、より厳しい目で医療機関を選びます。その厳選の結果が当院であることを、私たちは大変誇りに思っています。



LASIK

フェムトセカンドレーザーの中でも極めて高い性能を誇る『VisuMax』を、2008年にアジア・パシフィック圏で最初に導入。この次世代型レーザーを用いることで、従来のLASIKよりも、さらに薄く精度の高いフラップの作成が可能となり、より安全な手術を行うことができるようになりました。

また、最近ではVisuMaxを使用するフラップを作らない画期的なレーザー屈折矯正手術（ReLEx smile）を選択する患者様も増えています。

●安心LASIKネットワークの発足当初からの会員です。

安心LASIKネットワークとは、LASIKの正しい情報を発信し、手術後のフォローまでトータルな医療を行うことを目的として作られた、大学病院と眼科専門医のネットワークです。



ReLEx smile

（リレックス スマイル）

～LASIKに代わる次世代の視力回復手術～

『ReLEx smile（リレックス スマイル）』は、フラップを作らない点が最大の特徴。レーザーを照射して角膜内部にシート状のレンチクルを作成し、角膜表面につけた小さな創口から、そのレンチクルを取り除くことで視力を回復させる、安全性と安定性においてLASIKを超えた新しい屈折矯正方法です。高性能フェムトセカンドレーザー『VisuMax』を使用することで、初めて可能になる次世代の角膜屈折矯正手術です。

< ReLEx smile の利点 >

- 矯正精度が高く、近視への戻りが少ない
- 痛みが少ない
- ドライアイになりにくい
- 角膜の生体力学特性が保たれる
- 外部からの衝撃に強い



Hole ICL

2012年10月から開始したHole ICLは、北里大学清水公也教授の考案による新しいタイプのレンズで、従来のICLのレンズの中心に0.36mmの小さな穴が開いており、そこから房水が前眼部へと流れるように設計されています。そのため、白内障や緑内障といった術後合併症が起りにくいと言われています。また、レンズの孔は視力などの視機能には影響がないと言われています。

術前にレーザーで行う虹彩切開を必要としないため、患者様の負担がより少なくなり、今後の主流になっていくと思われます。

2013年でHole ICLが登場してから2年、Toric ICLは10年が経ちました。Hole ICLは現在世界30ヶ国で6500枚埋植され、ヨーロッパでは50%以上を占めています。当院でも、2013年は手術のすべてがHole ICLでした。



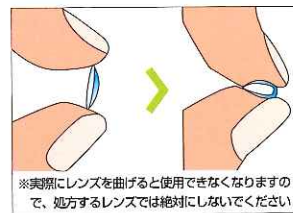
オルソケラトロジー Orthokeratology

就寝時に装用する特殊な加工がされたハードコンタクトレンズで、装用開始から2週間ほどで日中は良好な視力を保てるようになります。スポーツなどでメガネやコンタクトレンズが装用できない方にお勧めです。

TORAY プレスオーコレクト 2013年5月導入

●レンズの素材がやわらかく、割れにくい
レンズが割れにくいので、お子様にも安心して使っています。

●酸素透過性が高く、内皮障害のリスクが少ないため、就寝時に装用しても安心、安全



●日本製（東レ）で、日本人の角膜形状に合ったレンズデザイン

一般的に、日本人の角膜は欧米人の角膜に比べ、角膜中心部に突出の少ないフラットな形状になっています。プレスオーコレクトは、日本人の目に合うように設計することで角膜への吸着を防ぎ、レンズの動きによって涙液の交換が良好に行えるようデザインされています。

マイエメラルド

●アメリカ製で、オルソケラトロジーとしての歴史が長い ●日本では2009年4月に厚生労働省が認可

●近視矯正効果が出るのが比較的早い

・オルソケラトロジーレンズ『プレスオーコレクト』『マイエメラルド』は、厚生労働省によって認可されています。また、医療費控除の対象になります。

アレルギー外来 Allergy

アレルギー疾患の有病率は世界的に増加しており、また低年齢化していると言われています。アレルギー外来は、主に難治性アレルギー性結膜疾患で原因や生活上の注意点を知りたい方や、角膜障害を生じていたり、点眼ではコントロール不良の重症アレルギー性結膜疾患の方を対象としています。涙液中総IgE抗体測定（アレウォッチ涙液IgE）、血液検査での抗原特異的IgE抗体測定（RAST法のほかに、イムノクロマト法により8項目の結果がその場でわかるイムノキャプトラビッドも検査可能）、皮膚テストや点眼誘発テストなどによってI型アレルギー反応の証明を行うことで、原因となる抗原の種類に応じた回避法を提案します。治療は点眼などの外用療法を中心として、重症例ではステロイド結膜下注射や結膜乳頭切除などの外科的治療を組み合わせで行います。

眼精疲労外来 Asthenopia

眼精疲労はいくつもの原因が組み合わさって起こり、さまざまな症状が現れます。ひとつひとつ原因解明を行い、根気よく治療をすることが大切です。

医師と経験豊富な視能訓練士が時間をかけて原因究明し、最適な治療法をご提案します。また、アロマの香りに包まれた部屋で目の疲れに効くツボ押しマッサージによって心身ともにリラックスしていただけます。

当院では、アロマセラピストの資格があるスタッフがマッサージをし、サウンドヒーリングも取り入れています。



サウンドヒーリング

音は音波として、体の細胞に細かな波紋を広げ、体の中を伝わっていきます。

心地よい上質の体感振動として体の深部に物理的マッサージ効果を与え、血流やリンパの流れを促進させます。ヘッドホンで音楽を聴きながら、サウンドクッション（リラックス効果の高い低音域の音を骨伝導で体に伝える）をおなかや背中当て、体と心を癒します。



子どもの近視抑制プロジェクト

当院では、下記のような近視抑制方法をご提案しています。

アトロピン 0.01% 点眼液

以前から、アトロピンには近視抑制効果があることが分かっていたのですが、副作用が強く、子供の近視抑制には使えないと考えられてきました。しかし、最近濃度を薄くしても十分効果があるという報告があり、再び近視予防に使われ始めました。アトロピンは眼軸延長に与関する脈絡膜や強膜に分布するムスカリン受容体に直接作用し、これをブロックするため、近視抑制効果があると言われています。100倍に薄めたアトロピンでは散瞳作用や調節麻痺作用は起こりません。海外の論文では、副作用を最小限にして、なおかつ十分な近視進行抑制効果が得られることが示されています。

1日1回点眼します。

トロピカミド点眼液

効果が弱く、2-3ヶ月で効果がなければアトロピン処方
やメガネ処方を行います。

サポートメガネ

調節力をサポートするメガネ（累進焦点メガネ）です。
調節ラグを軽減させ、眼軸延長を抑制すると言われています。

遠近両用コンタクトレンズ

8歳くらいまでが効果的と言われています。

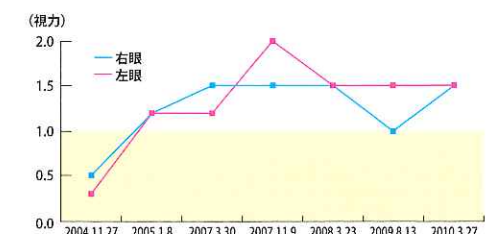
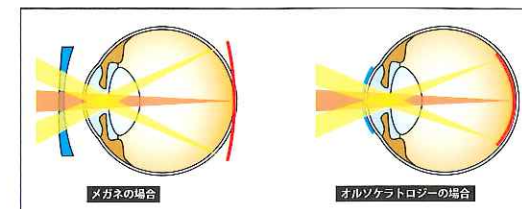
オルソケラトロジー

近年、オルソケラトロジーコンタクトレンズの近視抑制効果について、さまざまな研究が国内外で行われ発表されています。近視眼に対して通常の単焦点メガネで矯正を行うと、周辺部の遠視性デフォーカスを生じます。それに対してオルソケラトロジー後は周辺部角膜が肥厚、ステープ化するため周辺での屈折力が増し、その結果、周辺網膜像での遠視性デフォーカスが改善するという仮説が提唱されています。

〈症例〉オルソケラトロジーを9歳（小学校4年生）から開始し、9年以上経過した女子の視力の経過

9年以上経過した現在も、近視が進行することなく両眼1.5以上の良好な視力を維持しています。

小学校4年生から高校3年生までの成長期に近視が進行していないことから、抑制効果を得られる可能性があるのではないかと考えられます。



学会発表

■第36回日本眼科手術学会総会

<一般講演>

『角膜形状解析装置を用いた白内障手術における角膜後面の惹起乱視の評価』市川慶

<モーニングセミナー>

『フェムトセカンドレーザー VisuMax による角膜手術：角膜リング』中村友昭

■東海眼科学会

『円錐角膜進行予防治療として角膜クロスリンキングを施した症例の1年経過報告』小島隆司

■第37回日本角膜学会総会

■第29回日本角膜移植学会

<学術展示>

『角膜クロスリンキングにおける紫外線照射中角膜厚モニタリングの有用性の検討』小島隆司

『白内障術前患者における前眼部 OCT を用いた角膜前後面比の検討』長谷川亜里

■第117回日本眼科学会

<屈折矯正手術講習会>

『機器整備と周術期管理』中村友昭

■第7回箱根ドライアイクラブ

『屈折矯正とドライアイ』中村友昭

■第28回 JSCRS 学術総会（日本白内障屈折矯正手術学会）

■第52回日本白内障学会総会

<シンポジウム>

『老眼矯正の最前線：老視 LASIK』中村友昭

<一般講演>

『穴あき Implantable collamer lens (Hole ICL) の術後 vaulting 評価』小島隆司

『SMILE 施行症例の短期成績』原修哉

『生体眼におけるヒト水晶体の赤道径、前後径、体積の測定』馬嶋清如

<学術展示>

『Small Incision Lenticule Extraction (SMILE) と LASIK 術後のドライアイの比較検討』吉田陽子

『Hole ICL および従来の ICL の視機能の比較』長谷川亜里

<ランチョンセミナー>

『VisuMax による新しい角膜手術』小島隆司

■リフラクティブ関西研究会（Refractive Surgery Update Seminar in Kyoto 2013）

『老視レーシック：モノビジョン Laser Blended Vision』中村友昭

■第1回 JSCRS サマーセミナー

『ここまできた老視矯正：Laser Blended Vision』中村友昭

『ディベートシリーズ：-6D から -8D の近視～LASIK 派 vs 有水晶体眼内レンズ派～』中村友昭

『屈折矯正に関する都市伝説：Phakic IOL を入れると緑内障になりやすい』中村友昭

■第49回日本眼光学学会総会

<一般講演>

『コントラストグレアテスター CGT-2000 を用いた屈折矯正手術のコントラスト感度』片岡嵩博

■第2回オプトメトリックセミナー

『屈折矯正手術 2013』中村友昭

■第67回日本臨床眼科学会

<インストラクションコース>

『白内障サーજャンも必見！トーリック有水晶体眼内レンズをマスターしよう』中村友昭、市川一夫、他

■第33回ドライアイ研究会（第67回日本臨床眼科学会オキュラーサーフェス研究会（SIG））

<ドライアイリサーチアワード受賞講演>

『Aged-related dysfunction of the lacrimal gland and oxidative stress: evidence from the Cu, Zn-superoxide dismutase-1 (Sod 1) knockout mice』小島隆司

■第54回日本視能矯正学会

『角膜クロスリンキング術前後における角膜形状変化の検討』森川桃子

■第21回コンタクトレンズ技術フォーラム

『患者満足度を上げよう！日々の診療で簡単にできること』井藤麻由香

臨床研究

■屈折矯正

ReLEx smile の術後成績

ReLEx smile 患者アンケート

LASIK と ReLEx smile の視機能の比較

Hole ICL の術後成績

Hole ICL の Vaulting 変化

Hole ICL 患者アンケート

LASIK 長期経過眼のドライアイ

■眼内レンズ

レイナーサルコフレックスの術後成績

多焦点眼内レンズの術後成績

LASIK 後の眼内レンズ度数の計算

■角膜外来

角膜リング術後成績

クロスリンキング術後成績

クロスリンキング後の角膜形状変化

■その他

角膜リング術後成績

VU-MAXII を用いた水晶体変化の測定

レーザー治療の屈折矯正角膜切除術

(PTRK)

論文・執筆

『広角測定可能な超音波生体顕微鏡 VU-MAX II を用いた調節時の前眼部および水晶体変化の測定』

片岡嵩博「視覚の科学」第34巻、3号

『屈折矯正手術セミナー：Implantable collamer lens (ICL) 挿入後の瞳孔ブロック』

小島隆司「あたらしい眼科」Vol.30 No.4 503-504

『フェムト秒レーザーのみで行う屈折矯正手術：ReLEx, SMILE』中村友昭「眼手術学4. 角膜・結膜・屈折矯正」

『ICL 適応決定、レンズ選択のための画像診断』

中村友昭「眼科診療クオリファイ 24. 前眼部の画像診断」(2014 年発刊予定)

『後房型有水晶体眼内レンズ』

中村友昭「眼科診療エキスパートシリーズ 知っておきたい屈折矯正手術」(2014 年発刊予定)